

第35回漢文教育研修会募集要項

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃から漢字・漢文教育にご理解を賜り、心よりお礼申し上げます。
さて、本学会では、中・高等学校の先生方の日々の教育と会員の教養に資するため、漢文教育研修会を開催し、毎回好評を得てまいりました。本年も下記のように教養・教育の2講座を開催する運びになりましたので、ご案内申し上げます。
この機会に、漢字・漢文、そして日本と中国の文化全般にわたり、集中的に取り組まれてはいかがでしょうか。
国語科の先生方をはじめ、一般の方々のご参加をお待ち申し上げます。

実施要項

- 1 目的**
 教養講座 漢字・漢文および日本と中国の文化全般についての理解を深めることを目的とする。(やや専門的内容 一般社会人・国語科教員対象)
 教育講座 主に中・高等学校の漢字・漢文教材を扱い、明日の授業を豊かに展開する力を培うことを目的とする。(基礎的内容 国語科教員・一般社会人対象)
- 2 期間**
 教養講座 2019年7月26日(金)～7月28日(日) 3日間
 教育講座 2019年8月16日(金)～8月18日(日) 3日間
*教育講座は、曜日が例年と異なります。
- 3 会場**
 教養講座 湯島聖堂内斯文会館講堂(東京都文京区湯島1-4-25)
JR 御茶ノ水駅下車 徒歩2分
地下鉄千代田線 新御茶ノ水駅下車 徒歩2分
地下鉄丸ノ内線 御茶ノ水駅下車 徒歩1分
 教育講座 二松學舎大学九段キャンパス3号館(東京都千代田区九段南2-2-4)
地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線 九段下駅下車 徒歩8分
JR、地下鉄有楽町線・東西線・南北線 飯田橋駅下車 徒歩15分
JR、地下鉄有楽町線・南北線・都営新宿線 市ヶ谷駅下車 徒歩15分
- 4 受講料** 各講座 会員 5,000円 非会員 10,000円
*今回の受講を機に本学会に入会される場合は、受講料は会員扱いです。
- 5 定員**
 教養講座 75名
 教育講座 120名
- 6 主催** 全国漢文教育学会
- 7 後援** 文部科学省・全国高等学校国語教育研究連合会(申請中)
- 8 申込締切**
 教養講座 7月13日(土)
教養講座は、申し込み順に受け付けます。定員になり次第締め切りますので、申し込みはお早めをお願いします。
 教育講座 8月9日(金)
教育講座は、会員を優先して受け付けます(会員60名、非会員60名)。
- 9 申込先** 全国漢文教育学会研究部
〒113-0034 東京都文京区湯島1-4-25 湯島聖堂斯文会館内
*封筒表面に「教養(教育)講座申込」と朱書してください。

10 受講までの流れ（2講座共通）

昨年から受講料の納付方法が変わりました。

- ①別紙「申込書」に必要事項を記入の上、本学会事務局宛に郵送する。
- ②事務局より「受講票」（ハガキ）が届く。
- ③第1日の開講式前に、現金で受講料を納付する。（その際、「受講票」をお示しください。）
第2日以降から参加する場合は、当日の受付時に受講料を納付する。
- 注1 全日程欠席の方には、後日受講料を請求させていただきます。
- 注2 研修会受講を機に本学会への入会をご希望の方は、本学会ホームページの「入会申込書」に必要事項をご記入の上、同封してください。
- 注3 会費を滞納されている場合は、既会員でも会員扱いにならない場合がありますので、ご注意ください。

11 その他

- ①申し込み後のキャンセル、振り替えなどはお受けできません。
- ②講師の急病等により、講義内容は予告なく変更になる場合があります。
- ③天災その他のやむをえない不可抗力の事情が生じた場合は、当日でも講座を中止する場合があります。

【教養講座日程】会場 湯島聖堂斯文会館 《敬称略》

	第1日 7月26日（金）	第2日 7月27日（土）	第3日 7月28日（日）
第1限 10:00 ～ 12:00	白楽天の日常 — 一口腹の愉しみ— 田口暢穂 (鶴見大学名誉教授)	出土文献と伝世文献 — 『老子』を中心に— 谷中信一 (日本女子大名誉教授)	陰陽五行思想 清水浩子 (斯文会)
第2限 13:30 ～ 15:30	日本古代の木簡と漢字 井上 幸 (東大阪大学)	『文選』と六朝の文論 牧角悦子 (二松学舎大学)	身近な漢語をめぐる 木村秀次 (元千葉大学)
	受付・受講料納付開始 9:30 開講式 9:50～	受付開始 9:45	受付開始 9:45 閉講式 15:40～15:50

【教育講座日程】会場 二松学舎大学九段キャンパス3号館 《敬称略》

	第1日 8月16日（金）	第2日 8月17日（土）	第3日 8月18日（日）
第1限 10:00 ～ 12:00	漢詩の作り方 日原 傳 (法政大学)	故事成語の動物たち 高芝麻子 (横浜国立大学)	明治の漢文入門教材 木村 淳 (大妻女子大学)
昼休み	漢文教育に関する個別相談会		
第2限 13:30 ～ 15:30	伊藤仁斎『論語古義』を 活用した『論語』の授業 山之内英明 (十文字中学高等学校)	『論語』学而 「有朋自遠方來」の訓読再考 — 復文の効用— 古田島洋介 (明星大学)	入試漢文 — 新テストで求め られる漢文の力— 三宅崇広 (駿台予備学校)
	受付・受講料納付開始 9:30 開講式 9:50～10:00	受付開始 9:45	受付開始 9:45 閉講式 15:40～15:50

※教育講座第2日昼休み（12:30～13:15）に「漢文教育に関する個別相談会」を設けます。
本学会常任理事が受講者の質問に個別にお答えしますので、奮ってご参加ください。

講師のご紹介

- 田口暢穂先生**（鶴見大学名誉教授） 著書に『白詩選』（解説、研文社）、『漢詩の名作集』（編著、明治書院）、『初めて読む唐詩』（共著、明治書院）、『おじさんは文学通 漢詩篇』（明治書院）などがある。
- 谷中信一先生**（日本女子大学名誉教授） 著書に『晏子春秋』（明治書院）、『「老子」 經典化過程の研究』（汲古書院）、『東洋思想と日本』（汲古書院）などがある。
- 清水浩子先生**（斯文会講師・京都大学人文科学研究所共同研究員） 著書に『年号と東アジア—改元の思想と文化—』（共著、八木書店）、論文に「中国古代の養生思想」（『中国古代史研究』所収、研文社）などがある。
- 井上 幸先生**（東大阪大学准教授） 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所アソシエイトフェローを経て現職。論文に「一次資料としての出土漢字」（『古代の文字文化』所収、竹林舎）などがある。
- 牧角悦子先生**（二松学舎大学教授） 著書に『列女伝—伝説になった女性たち—』（明治書院）、『中国古代の祭祀と文学』（創文社）、『詩経・楚辞』（角川書店）、『経国と文章—漢魏六朝文学論』（汲古書院）などがある。
- 木村秀次先生**（元文化庁国語調査官・元千葉大学教授） 「ことば」シリーズ（文化庁発行）の編集に長く携わる。著書に『近代文明と漢語』（おうふう）、『身近な漢語をめぐる』（大修館書店）などがある。
- 日原 傳先生**（法政大学教授） 著書に『新日本古典文学大系明治編／海外見聞集』（共著、岩波書店）、『漢文のルール』（共著、笠間書院）、句集『江湖』（花神社）、『此君』（ふらんす堂）などがある。
- 山之内英明先生**（十文字中学高等学校教諭） 本学会第33回大会（於 東北大学）で研究発表「視聴覚資料を用いた漢文導入授業の一例」。各種の受験参考書を執筆。
- 高芝麻子先生**（横浜国立大学准教授） 著書に『杜甫全詩訳注(一)』（共著、講談社）、『幕末漢詩人杉浦誠「梅潭詩鈔」の研究』（共著、汲古書院）、『柳宗元古文注釈—説・伝・騒・弔—』（共著、新典社）などがある。
- 古田島洋介先生**（明星大学教授） 著書に『これならわかる返り点—入門から応用まで』（新典社）、『日本近代史を学ぶための文語文入門 漢文訓読体の地平』（吉川弘文館）、『漢文訓読入門』（共著、明治書院）などがある。
- 木村 淳先生**（大妻女子大学講師） 訳書に『中国古典の知恵—儒・道・禅・墨・法・兵』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、編集・解説に『明治漢文教科書集成』補集1・2（不二出版）などがある。
- 三宅崇広先生**（駿台予備学校講師） 本学会会誌に「大学入試漢文」を連載。著書に『三国志が面白いほどわかる本』（中経出版）などがある。各種の受験参考書も執筆。

..... キ リ ト リ
.....

第35回漢文教育研修会申込書

申込日 月 日

1. 参加希望講座

教養講座	
教育講座	

2. 会員・非会員の別

会 員	
今回入会希望	
非 会 員	

* 該当の欄に○をお付けください。

※受講料は、各講座第1日の開講式前に納付してください。

(ふりがな) 参加者氏名	勤務先名 TEL
〒 自宅住所	
TEL	